



## オリンピックアジア野球予選を前に神の手現る

台湾ナショナルチームが野球のアジアオリンピック予選に参加しているが、この試合に勝つためにはできることは全て行わなければならない。こうした状況の中であって、昨日台湾ナショナルチームはその戦力を増強するための「秘密兵器」を獲得することができた。この「秘密兵器」とは、日本の医師である台湾人医師柯尚志先生の「遠絡療法」という治療法で、これは中華民国（台湾）ナショナル野球チームの選手たちの痛みを瞬間的に消し去り、今後継続して全力で戦いに臨むことができるという治療法である。

柯医師は元花蓮県知事柯丁選氏のご子息で、現在は東京で開業しており「遠絡療法」の開発のために18年間研究を続けてきた。この治療法は西洋医学の理論と東洋医学の原理を融合して誕生したツボを按刺激する治療法で、現在柯医師の診療所では薬を使わないで痛みを治す治療を推進している。

柯医師は現在台湾野球協会の医療顧問に就任しており、台湾ナショナル野球チームが練習のために福岡ドームに来ると聞き、選手たちの痛みを少しでも取ってあげたいとの願いから、東京から急遽福岡に飛んできた。今回柯先生が治療した選手は、朝から右肩に少し痛みを感じていた張誌家選手（西武）と、腰椎がやや硬くなっていた陳金鋒選手（メジャーリーグ）で、柯先生は遠絡療法によってそれぞれ治療を施した。

また今回柯先生は、台湾ナショナルチームの4名のトレーナーが引き続いて選手たちに痛み治療ができるよう、簡単な治療技術指導を実施した。この遠絡療法は柯医師自らが研究開発したもので、今後全力で広く世界に普及していくという段階で、選手たちの痛みを按压するだけで瞬間的に消し去ることができるという点が大きな特色である。これにより選手たちは痛みがない良い体調で試合に全力をあげることができることとなる。

台湾チームの選手たちの殆どは大なり小なり痛みや損傷を持っているが、今日からは柯医師の遠絡療法が選手たちの痛みを消す大きな支えのひとつとなり、これによって台湾ナショナル野球チームの戦力が増強されることとなる。柯医師は、今後台湾ナショナル野球チームが試合に勝つためのいわゆる「秘密兵器」のひとつになるに違いない。

当記事は翻訳したものです。

日本福岡報道  
記者：陳志祥